

科目区分：小学校教科科目  
授業科目名：初等国語(書写分)

## 「初等国語（書写分）」授業報告

国語教育講座・東 賢司

### 1. 授業の概要

小学校教科（国語）は、15回の講義の中の5回が書写の学習となっている。全体の受講生は100名を越えるために、非常勤講師1名と二クラスを編成し、講義に当たっている。小学校の書写に関しても学ぶべき内容はたくさんあるが、小学校免許に関わる書写の時間はこの時間に限られる。そのため、学習者に与えられた5回の講義をどの様に構成するか、また何を学ばせるかが最も重要だと考えている。学習指導要領では、書写に関する指導について、小学校3年生以上で毛筆指導を行い、硬筆指導の基礎を養うものとされているが、国語の力を育成するために役立つ書写力とはどのようなものかを考えさせたいと願っている。

#### (1) シラバス等

この授業の目的と到達目標について、シラバスには以下の記載をしている。

##### 【目的】

小学校教員免許を取得するための選択必修科目であり、小学校教員に必要とされる、作文の見方、音声表現法・文章表現法、硬筆・毛筆の書写について学び、国語の基礎的な知識や技能を習得する。

##### 【到達目標】

- ①書写について、小学校の教師に必要な硬筆・毛筆・板書の実技力を身につける。
- ②自らの言語能力・書写能力を高めようとする態度を身につける。

##### 【ディプロマ・ポリシー】

教育に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。（知識・理解）

教育活動に取り組むため、高い技能と豊かな表現力を身につけている。（技能・表現）

#### (2) 内容の概要等

##### 第1回 平仮名、漢字の筆順、板書の基本

- ①小学校の授業では平仮名を使用することが圧倒的に多く、これを克服することが、文字を見やすくすることの鍵となることを説明、平仮名50音表を完璧に身につけるように課題を出す
- ②小学校で学習する漢字は1006文字あり、「学年別漢字配当表」に従って、学年別に80～200文字程度に区分されていることを説明、
- ③筆順はあくまでも基準であるが、小学生が混乱することがないように、基準となる筆順を覚えなければならない、筆順は「筆順指導の手引き」に従っているが、学問的に言えば揺れのある文字もあることを説明、1008文字の筆順を確認しておくように指示
- ④間違いやすい筆順の漢字を50程度問題化し、解かせる。その後、数人の学生に板書させて、筆順や字形を確認

##### 第2回 毛筆の基本と平仮名

- ①教壇に立って子どもに教える最初に教える毛筆の基本技能についての説明。姿勢の重要性、執筆法(指法と腕法、筆の傾き)、用筆法(始筆、送筆、終筆)、運筆法(筆脈、筆圧、方向、速度)の説明
- ②平仮名の課題2つを作品化
- ③後片付けは、毛筆学習の重要な学習の一つであることを説明
- ③カタカナの作品を課題

##### 第3回 漢字の基本

- ①毛筆を使用する場合の注意点を確認
- ②漢字の基本点画の説明と練習
- ③漢字一文字の課題を三点提示し、一点を作品化させる
- ④漢字一文字の課題と平易な文書課題を課題にする

#### 第 4 回 二文字の漢字

- ①小学校で最も多い課題は、漢字であることを説明
- ②課題を二つ用意し、作品化
- ③漢字二文字の作品を課題化

#### 第 5 回 漢字仮名交じり

- ①漢字と仮名の交じる文書応用課題を 2 点作品化
- ②中心の取り方と、字間の取り方の方法
- ③5 回の講義で学習した内容は、教壇での指導に直接的に使うことであることを説明

初等国語の中では、身につけてほしい最低限度の技能として、次のことを伝えてきた。

- ①硬筆で平仮名と片仮名が正確に書けること
- ②漢字の筆順を身につける
- ③毛筆漢字の基本点画が正確に書ける

学習内容は、毛筆を講義中に行い、硬筆は時間外学習で行い、添削した課題を返却するという形を取った。教育実習などでは講義中に学習したことの定着ができていないことを多く見かけている。このために、この講義でも、①毛筆は硬筆の基礎であることを確認する、②硬筆は 1 文字 1 文字の練習よりも漢字と平仮名の混じっている文書を教材とする、③筆順の定着を重視する、という三点を事故課題とした。

硬筆教材を時間外の課題としたのは、講義時間の短さが影響していることが大きな理由であるが、発展的な課題を検討し、身につけにくい課題を設定することにより、学習者に緊張感を与え、問題意識を高めてもらうという効果をねらった。

## 2. 受講生の意識調査

- ①授業内容（講義中に行った書写の周辺の説明、硬筆毛筆学習、板書指導など）について。
- ②硬筆教材について。
- ③教師の指導方法について（添削や話題について）。
- ④手書き文字に対する意識の変化

枠内の四つの項目は、担当回中に得られた学生の反応や感想・意見を集約して立てた項目である。提出物などに書き込まれる学生の質問や意見、授業後に寄せられる学生の質問等を基礎データとし、分析を行った。その結果、学生の意識としては、以下の傾向があることがわかった。

#### ①について

- ・板書学習の重要性について意識が高まったという意見が多い
- ・基礎的な型が重要であるという声が多い

#### ②について

- ・日常的に文字を丁寧に書くことの難しさを指摘する声が多い
- ・題材は一見簡単そうに見えるが、手本のように書くことは難しいという指摘が多い

#### ③について

- ・自分の文字の弱点がよくわかったという指摘が多い

#### ④について

- ・自分の文字を観察する機会が増えたという指摘が多い

## 3. 総括

業務として、授業以外の学生の手書きの書類などを見ていると、講義前後の手書き文字が全く変化していないということを見かける事が多い。書写学習の目的は、手本通りに書けることが重要ではなく、日常的に書く文字が読みやすいことが大切であることが伝え切れていないと感じている。

毎年の課題として、講義期間中は文字を書くことに意識が高まるが、その後継続ができないという問題がある。今回の意識調査でも講義期間中の提出物そのものはしっかり書けているが、それに添えられる書き文字は、粗雑であったり、文字の大きさに統一性がなかったり、曲がっていたりして読みにくいことがある。

これらの問題点を解消するためには、教科横断的な指導が必要になるが、将来的な改題である。